

令和4年第10回定例会会議録要旨

- ◆ 出席委員 荒木幸一 海老原千浩 山本憲一 陶山光秀 日高まり子
- ◆ 欠席委員 なし
- ◆ 出席職員（事務局） 児玉和弘 佐藤利明 三好秀敏 川崎昌彦 馬乗園寛子
- ◆ 会議録署名委員指名 海老原千浩

5 教育長報告要旨（10月1日～10月31日行事結果）

①教育総務課

○10月9日（日）中学校体育大会

○10月16日（日）小学校運動会

天候等も心配されましたが、無事に開催されました。

○10月18日（火）情報モラル先進地視察研修

鹿児島県始良市の帖佐中学校に視察に行きました。

○10月20日（木）魅力ある学校づくり実態調査

本年度、本庄中学校区が国から魅力ある学校づくり推進事業の指定を受けておりまして、文部科学省の調査官が、授業の取り組みの進み具合などを調査に来られました。

○10月31日（月）令和4年度市町村教育委員研究協議会第2ブロック

②社会教育課

○10月2日（日）第29回法華嶽公園少年少女剣道大会

3年ぶりとなりましたが、500名以上の選手が集まり、盛大に開催されました。

○10月22日（土）・23日（日）第39回総合町民祭

天候にも恵まれ、こちらも3年ぶりに開催されました。

教育長 私からの報告は以上です。委員のみなさまに体育大会・運動会の感想をお聞かせいただきたいと思います。

教育委員 木脇小学校・中学校に参加させてもらいました。制限等もあまりなく、3年ぶりという事で保護者の方もたくさんいらっしやって、おじいちゃんおばあちゃんの姿も見られたので、楽しく見せていただきました。子どもたちがとにかく一生懸命で、手を抜くこともなく、すごくはつらつとした姿でした。木脇中学校ですが、3年生を中心に作る創作ダンスがメインで最後に行われるんですけど、子どもたちが一生懸命作ったということで毎年アンコールがかかって2回踊ってくれるんですけど、今年は雨の関係だったのか、最初から創作ダンスは1回しか踊りませんという

放送が何回か流れていましたが、やっぱり保護者からアンコールがかかって、来賓の方からも見せてほしいという声がかかったんですけど、1回だけということで、「もう1回踊らせてあげてもいいのでは」という声があがっていました。給水タイムが4回、5分ずつありましたが、そこまで暑くはなかったし、この給水タイムを省いたら2回踊れたんじゃないかな、と少し残念に思いました。小学校については、天気良くて暑いくらいでしたが、子どもたちは一生懸命頑張ってくれていて、とても見ごたえのある運動会だったと思います。

教育委員 八代小・八代中学校に参加させていただきました。小学校のほうは天気も良く、子どもたちもはつらつとしていて、プログラムの省略もなく、完全燃焼できたのではないかと思います。とても良い運動会でした。中学校のほうは、最初、春に実施予定で、そこで練習時間を取っていたということで、始まる前に校長先生が練習時間があまり取れなかったという話をされていたんですけど、体育大会を見た感じでも、子どもたちはもちろんやるべきことを一生懸命やって、応援やダンスとかでもはつらつとしていたんですけど、完全燃焼しきれていないような印象を受けました。仕方のない部分もあったとは思いますが、もう少し練習時間を取らせてあげたかったと思いました。親同士の交流も少なく、これがこの先もずっと続くと、運動会は親同士の交流の場でもあるので、トラックの中は子どもたちの一生懸命やる場、外は子どもたちを応援しつつも大人たちの社交の場だったんですけど、開かれた学校という、コミュニティスクールにも関係すると思うんですけど、そういう人間関係があってはじめて全体の地域との一体感が生まれると思います。

教育委員 本庄中学校・森永小学校に参加させていただきました。本庄中学校の体育祭は寒さもありましたが、やはり給水タイムが多くその影響か競技も少なく感じました。父兄の観覧も規制がかかっている、十分まだ席に余裕があったので、元に戻してほしいと思いました。森永小学校の運動会は、去年と同様良い運動会だと思います。保護者の制限もなかったですし、競技も結構ありましたし、良かったと思います。全体を通して、ぜひ来年度からは1日開催してほしいという父兄からの要望はかなり聞きました。やっぱり、先生とPTAと子どもと地域と、この関係がかなり薄れていて、田舎らしいまとまった運動会みたいな雰囲気はまったくもうなくなってきているので、そこらへんから戻して、ぜひ来年からは学校行事もそうですが、運動会は1日開催でお願いしたいと思います。3年目になり慣れてくるのではなくて、どんどん寂しさが増してくるみたいな感じになっています。ぜひそこらへんをお願いしたいと思います。

教育委員 本庄中と本庄小に伺いました。本庄中では学校の役員も含め、保護者たちがとても動いていらっしゃるということが印象的で、体育祭の意義というか、学校の中、地域の中の位置付けといったことをどういうふう考えていくか、というところがあるのかなと思いました。カリキュラムマネジメントとしての体育祭の位置付

け、応援団のところに素晴らしい立て看板があって、教科の横断というか、美術と体育祭、体育科との繋がりやまた音楽との結びつき、コロナの影響でのスマートなプログラムというか、小学校では団技とダンスが一緒になっていて、プログラムの工夫ですごくスマートさが増していて、自然な感じで行われていました。小学校は子どもたちひとりひとりがとても良く役割を分かっていて、先生たちがあまり指示している様子がなく、その役割を果たしているということを感じました。印象的だったのが、とても速い子がコーナーでこけて、とっても悔しそうに帰ってきたんですよ。その子の同じ団の子が、ずっとテントまで一緒に行っている姿がすごく印象的で、その後出てきたときはまた一生懸命走っていたので、子どもたちの中でコミュニケーションを取る場面を垣間見ることができて、集団で活動するって大切な事、そして運動会って1年生から6年生までが一緒になってやる活動のひとつとして、学校の中で大きなイベントというところで考えると、そういった縦の繋がり、横の繋がりがとても見えた運動会だったような気がします。

教育長 ありがとうございます。委員さんそれぞれの視点から、運動会・体育大会という学校行事を見ていただき、感謝を申し上げたいと思います。お話を聞きながら、まずは子どもが主役であるか、主役になれたか、燃え切ったかということであるとか、あるいは地域の繋がりの中では、今年から木脇小・中にはコミュニティスクール制度を入れて、いわゆる地域の学校参画というものを促しているところで、来年に向けて地域の方々のいろんなご意見などを行事の中にどう取り入れながら進めて行くかを考えなければと思いました。

 その他、行事関係で何かありませんか。では、本日は議事がありませんので、「その他（1）行事予定について」教育総務課からご説明をお願いします。

◆その他

◇行事予定について 各課行事予定表に基づき説明

教育長 その他も含め、ご質問等ありましたらお願いします。

教育委員 「魅力ある学校づくり」はどのような感じで進んでいるのかを教えてください。

教育対策監 今年、国の指定を受けて本庄中学校に加配教員1名を配置してもらっています。中学校区としての魅力ある学校づくりということで、子どもたちの居場所や、絆づくりのために事業を進めております。本庄中学校区では子どもの声をしっかり聴く、傾聴する姿勢を貫いていこうと取り組んでいます。そして、その子どもの声を聞いて、子どもの良さというものを積極的に認めていきましょう、承認していきましょうという取り組みがされています。この二日間、国立教育政策研究所から先生がお見えになって、それぞれの学校を参観され、ミーティングを通してこれからどういった方向で進めていけばいいのか助言を頂きました。

教育委員 どんなアドバイスがありましたか。

教育対策監 一番大きかったのは、傾聴すること、承認することはとても大切で、先生方がそういった姿勢で子どもたちに接していることは素晴らしいと評価された上で、学校の大半は授業ですので、授業改善に努めながらその授業の中で主体的対話的で深い学びを進めていくことが必要だということです。また、子どもたち同士が傾聴する、子どもたち同士が承認することを目指して行けば、さらに魅力的な学校になるのではないかというご助言を頂きました。

教育長 他に何かありませんか。

教育委員 小学校の運動会の際に中学校のPTA会長が来られて、中学校の野球部の話をされて、今、森永小と八代小合同でのソフトボール少年団がありますが、森永小の子どもたちは本庄中に行つて野球部に入れるけど、八代中の子どもたちは野球ができない。小学校のときに一緒にやってきた子たちと野球がやりたいということで、国富町でひとつの野球部として活動できないかという要望を出したいと言われました。将来的には地域移行とかありますけど、これも時間がかかるでしょうから、何かできないのかなと思います。

教育長 多分、望まれているのはそういった部活動等が学校の枠を越えてあること、もうひとつはそういった部活動で、中体連に出場できるかというのがあると思いますが、中体連がそのあたりを変えてこない、活動だけになってしまうところがあります。だから中体連の動きがひとつです。それと、部活動の地域移行の中で、例えば野球部、野球クラブを町でひとつにして、それで出場できるのであればそういった形もできますが、何より急がないといけないのは中体連の大会参加規程、これが変わらないと難しいですね。当然、大会に参加したいでしょうから、活動だけというわけにはいかないですね。また、指導者の確保とか教員の働き方改革というのでも打ち出されています。実際、専門でもないのに部活があるから誰かが持たざるを得ない、その結果あの先生は指導ができない、などと言われて、それはかわいそうだなと思いますので、教員の中でも自らやりたいという人たちにはどんどんやっていただきたいですし、でもそこは学校の教員だけでは絶対にカバーできませんので、地域の指導者を探していかなければならない、そういった何段階もの課題をクリアしながら地域移行をやっていかなければならないのかなと思っています。

教育委員 他市町村では、自分の校区の学校に部活がない場合、隣接する中学校に行くというのがありますよね。

教育長 国富でそれをやってしまったら、学校がなくなってしまう。

教育委員 合同チームみたいなものはどうですか。

教育長 例えば、八代中に野球部が立ち上がれば、本庄中との合同チームというのができます。ただ、これは学校でどう対応されるかになります。

教育委員 今のルールの中ではこういう方法がありますよ、というアドバイスはできるわけですね。

教育長 一度なくなった部活動を復活させるのは難しいですし、八代中に指導者を立てないといけませんから、なかなか大変ですね。中体連の方向性さえ決まれば、中学校の部活ではなくて国富町ベースボールクラブとして、ふたつぐらいさっとできるんです。

教育委員 中学校単位になっているからこういう問題があるわけですね。中学校に通う年齢の子たちの大会として、どこに所属していても大会出場が可能とすればできますね。教育委員会として、何か力になれないですか。

教育長 今は難しいですね。野球だけではなく、文化部も含めて全部活動の問題です。

教育委員 子どもたちにとって一番良い方法を取るために組織も努力して変わっていかないといいませんね。

教育長 変わっていきこうとしている時だと思いますが、その時間がかかっているということです。次の子どもたちもいますので、持続可能な仕組みを作ることが重要です。

教育委員 長く続いてきたユニフォームが消えていってしまうのは寂しいと思うので、そこも含めて子どもたちの夢が叶うようにしていきたいですね。

教育長 例えば子どもの数が減ってきたから教員数も減る、指導者がいないから部活動数も減る、中学校という部活動の単位で考えるからそうなるので、多様なクラブがあれば子どもたちはやりたい競技をやれるわけです。今まであった既存の部活を壊して新たなクラブとして立ち上げて、距離の問題が出てきたりするかもしれませんが、本当は野球がしたかったという子たちは野球クラブに入ればいいし、バスケがしたい子たちはそのクラブに入ればいいし、そういうクラブをどう立ち上げていくか、そのためにはそういうクラブでの大会出場を認めてもらわないといけません。その方針はまだ出ていない、というところです。あくまでも今は中学校の部活動単位、またはその合同チームでしか出場は認められていません。

教育委員 学校外のクラブみたいなものもあって、その大会とかもありますよね。様々なところで責任の所在とか子どもたちの安全管理とか、変えようとするといろんなことが出てくるんですよね。

教育委員 学校側だけじゃなくて保護者も頑張らないとなかなか前には進まないですよ。

教育長 そうですね。学校の手を離れてもいいんじゃないでしょうか。
他に何かありませんか。ないようですので、これで定例教育委員会を終わります。

(閉会午後3時55分)